

# 文学部

文学部生の

リアルな！学生生活

vol.18



文学部生のリアルな学生生活の様子を掲載し、ご父母の皆さまに文学部生の充実したキャンパスライフの風景、また文学部ならではの取り組み等の情報を発信いたします。				
---	--	--	--	--

5

## エルサレムのイメージ

皆さんはエルサレムと聞いて何を思い浮かべるでしょうか。聖地、宗教、紛争……。東洋史を専攻するまでは私にとってなじみがなく、「高校の教科書に出てくる地名」程度の認識でした。

## エルサレムでの調査

私は3年次に文学部から奨学金を給付され、エルサレムでの調査活動を行いました。初の海外渡航先が中東のイスラエルでした。2年次にふざけ半分で「イスラエルに行ってみよう」と言っていたのを覚えています。まさか本当に行くことになるとは思っていませんでした。

現地での活動内容は、主に研究文献



イスラム教の聖地「ハラム・アッシャリーフ」

## 多文化共生の街

エルサレムはイスラム教、ユダヤ教、キリスト教という3つの宗教の聖地であり、旧市街のなかにそれぞれの聖地が存在し、それぞれの信者がそれぞれの居住区で暮らしています。ユダヤ人地区にはほとんどイスラム教徒やクリスチャンはいませんが、ダマスカス門のあるイスラム教徒地区ではさまざまな人を見かけます。クリスチャンや巡

の収集と旧市街地の調査でした。活動期間中、さまざまなものを見てきましたので、いくつかご紹介したいと思います。



2回目のエルサレム調査に挑む

## 聖地エルサレムへの調査活動

—ニュースでは目にしない多文化共生の街—

倉野 靖之

文学部人文社会科学科東洋史学専攻4年  
三重県立松阪高校出身

礼者などです。

日本でニュースを見ていると、エルサレムは複数の宗教信者がいがみ合う土地であるように感じますが、普段の生活ではそういつたことはなく、多文化共生の街という印象を受けました。特に市場ではクリスチャンやユダヤ人がイスラム教徒の店で買い物をした

り、談笑する様子が見られます。巡礼者はさまざまな地域からやってきていました。イスラエルから近いところでは中東やアフリカ、遠くでは日本から来た人たちもいます。同様に、観光客も多くいました。現地の人々は、土地勘がなくても不自由なく行動でき

るほどに世話を焼いてくれますし、一般的な中東のイメージとはまったく違う世界が広がっていました。

そして、各宗教の信者が祈りを捧げる様子は、日本人とは違った価値観を持つ人々として私の目に映り、衝撃を受けました。

エルサレムは非常にバランスのとれた街でした。複数の民族や信者が同じ都市に居住し、過度に関わりすぎず、拒絶しすぎることもない、そんな街だったような気がします。こうして専攻の学びのなかで日本とはまったく違う世界を見ることができ、大変うれしく感じています。4年次もエルサレムへ調査に行けることになりました。これからも精力的に活動していきたいと思



## 授業での文章 作成で困ったら

文学部事務室  
坂田 範夫  
さかたのりお

この『草のみどり』9月号が発行されるころ、卒業を控えた文学部4年以上の学生は、各人各様、12月中旬に提出する卒業論文の執筆で頭を悩ませていることと思います。卒業論文に限らず、授業で課題となるレポートや発表レジュメ、投稿論文、各種活動報告など、文学部ではさまざまな文章作成の機会があります。特に1年生は、高校までの文章作成と異なるところで戸惑い、悩むことも多いと思います。今回は、学生が授業で取り組む文章作成（アカデミック・ライティング）で困ったときの相談・支援機関「ライティング・ラボ」（予約制）をご紹介します。

で相談にあたるのは、アカデミック・ライティングの訓練を積んだ大学院生チューターです。

もともとは、留学生の日本語文章作成支援から始まりましたが、自分の考えを相手に正確に伝えるライティングの技術は日本人学生にも有効なため、今では全学生を対象としています。利用した学生からは「論点の整理ができた」「引用の作法がわかった」「論文の構成ができた」と有益であったという評価をもらっています。2017年度の相談者数は年間延べ1000人程度でしたが、この数は年々増加しています。

他者との対話を通じて自分の考えを練り上げていくこと、言いたいことを的確に伝えること、これは社会に出る必要とされるスキルの一つです。ライティング・ラボを活用して、一生使える技術を身につけてもらいたいと思っています。

ライティング・ラボ公式Webサイト  
<https://www2.chuo-u.ac.jp/dagakuin/writinglab/>

相談（セッション）の様子を紹介する動画も視聴できます。



エルサレム旧市街の入り口の一つである「ダマスカス門」



「嘆きの壁」の前で祈りを捧げるユダヤ人